

ふくしまの今を伝える漁師たち
～風評払しょくに対する取り組み～

相馬双葉漁業協同組合
相馬原釜支所青壮年部 高橋 一泰

1. 地域の概要

私たちの住む相馬市は、福島県浜通り北部に位置する人口約3万6,000人の都市で、県立自然公園「松川浦」を始めとした豊かな自然に恵まれた、気候の温暖な都市である（図1）。



図1 福島県相馬市の位置

2. 漁業の概要

相馬双葉漁業協同組合相馬原釜支所は、正組合員数は361人と福島県内最大の漁協支所となっている。現在、沖合底曳網漁船が23隻、さし網や船曳網を主とする小型船が130隻所属し、カレイ類をはじめとした底魚類を主に、イカナゴ、シラスなどの浮魚類なども漁獲している。また、古くから資源管理型漁業を積極的に推進し、単なる漁獲規制にとどまらず、販売方法の改善や定期休漁日の設定などを先駆的に取り組み、それらを複合的に組み合わせることで、資源管理の成果を挙げてきた。震災以前の平成21年の年間水揚げ量は約1万2,000トン、水揚げ金額は約48億円と沿岸漁業の水揚げ地として全国有数の規模を誇っていた。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの漁船が被災し、沿岸部の漁業関連施設は甚大な被害を被った。相双漁協原釜支所では、当時所属していた漁船の半数に当たる115隻が全損または一部損壊し、漁協施設はほぼ全壊した。現在、漁船や港湾施設は徐々に復旧が進められており、平成27年9月には相馬原釜地方卸売市場が完成予定である。

3. 研究グループの組織と運営

相馬原釜支所青壮年部は、部長以下4人の役員を含む62人で組織されている。部の構成は、青壮年部の下部組織として、漁法別に小型漁船漁業を営む漁業者で構成される小型部会、沖合底曳網漁業者で構成される底曳部会が組織されている。全体の活動に加えて、それぞれの部会においても魚食普及や漁具の改良研究、各種勉強会が行われている。

4. 研究・実践活動の取組課題選定の動機

福島第一原子力発電所事故の影響により現在も福島県の沿岸漁業は操業自粛を余儀なくされている(平成26年11月末現在)。操業自粛の長期化によって漁業者の浜離れや、地域漁業の衰退が懸念され、漁業後継者のために早期の漁業を望む声が多く挙げられた。また、福島県沿岸では原発事故直後から水産物の放射性物質検査が実施され、放射性物質の汚染がない魚種や事故からの時間経過とともに低下した魚種が確認されている。このことから、安全が確認されている魚種を対象とした試験的な操業(試験操業)が平成24年6月から実施されるようになった。試験操業は小規模な操業と全国的な販売を試験的にを行い、出荷先での評価を調査し、漁業再開に向けた基礎情報を得ることを目的としている。これまでに築地をはじめ、全国各地の市場に試験操業で漁獲された福島県の魚が出荷されている。試験操業開始時はタコやツブ貝に限られていた対象種は、震災から3年半経過した現在56種まで拡大されている。

相馬双葉漁業協同組合では、平成23年から県内外のイベントに参加し、福島県水産物の現状を伝えるためのパンフレット配布やイベント会場でのアンケート調査を実施し、PR活動を実施してきた。当初、この活動に参加する漁業者は少数であったが、試験操業が開始されると、自分たちが獲ってきた魚を直接消費者に届け、その反応を自分の肌で感じてみたいという思いが強くなっていった。そのころ、青壮年部内は同じような考えを持つ漁業者は何人もおり、福島県漁業のPRについて何度も話し合いが重ねられた。その結果、試験操業が開始された翌年の平成25年から青壮年部漁業者が中心となり、県内外のイベントにおいて、漁業の現状や試験操業の取り組みを紹介する風評払しょくPR活動が開始された。

5. 研究・実践活動の状況及び成果(または効果)

(1) イベントにおけるPRと水産物の販売

平成23年から開始された各種イベントにおける福島県水産物の風評払しょくPR活動は平成23年が15回の参加であったが、その数は徐々に増加し、平成26年には11月末時点で21回となり(表1)、これまでに60を超えるイベントに参加している。活動の場は、私たちが住む相馬市や福島県を中心に実施していたが、回を重ねると仙台や東京など遠方の大消費地での活動も増加してきている。イベント会場では、パンフレットの配布やポスターやパネルの展示等のPR活動に加え、試験操業で漁獲された水産物を直接消費者に説明しながら販売している。販売できる水産物は、当初、タコとツブ貝であったが、試験操業対象種の拡大に伴い、シラスやコウナゴなども販売されるようになってきている。今後試験操業が拡大されれば、取り扱い水産物も順次拡大していく予定である。以下にこれまでに参加したイベントの様子を紹介する。

表 1 平成 25～26 年相双漁協相馬原釜支所イベント参加実績

年	月日	イベント名	開催場所
平成25年	6月1～2日	東北六魂祭	福島県福島市
	8月2～3日	相馬七夕祭	福島県相馬市
	8月10日	そうま七夕祭	福島県相馬市
	8月24日	福島県内水面水産試験場参観デー	福島県猪苗代町
	8月30～31日	街なかマルシェ	福島県福島市
	9月7日	相馬逸品フェア	福島県福島市
	9月15日	桑折町復興祭	福島県桑折町
	9月21～22日	ご当地キャラこども夢フェスタin白河	福島県白河市
	10月5～6日	ごちそうふくしま満喫フェア2013	福島県福島市
	10月6日	つばまるしえ	新潟県燕市
	10月27日	流山市民祭	千葉県流山市
	10月27日	丸公市場祭	福島県福島市
	11月2日	相馬市民祭	福島県相馬市
	11月2日	東京海洋大学海鷹祭	東京都港区
	11月9日	自然派くらぶ生協祭	東京都南大沢市
	11月9日	福島県水産試験場参観デー	福島県いわき市
	11月16～17日	函館・みなみ北海道グルメパークin仙台	宮城県仙台市
平成26年	5月19日	ふくしま汁知る味知るサミット2014	福島県二本松市
	5月24日	第3回のまおい夢気球プロジェクト	福島県南相馬市
	6月28日	丸公市場祭	福島県福島市
	7月5日	第30回高幡参道七夕祭り	東京都日野市
	7月13日	F-1グランプリ	岩手県陸前高田市
	7月26日	野馬追祭	福島県相馬市
	8月1～2日	相馬七夕祭	福島県相馬市
	8月9日	相馬花火大会	福島県相馬市
	8月16～17日	相双まるごと「観光」と「うまいもの」展	福島県福島市
	8月23日	丸公市場祭	福島県福島市
	8月23日	福島県内水面水産試験場参観デー	福島県猪苗代町
	9月6～7日	おいしい ふくしま いただきます！フェスティバル2014	福島県いわき市
	9月13日	相馬逸品フェア	福島県福島市
	10月5日	こおりEXPO2014	福島県桑折町
	10月18～19日	函館・みなみ北海道グルメパークin大宮	埼玉県さいたま市
	10月26日	流山市民祭	千葉県流山市
	10月26日	丸公市場祭	福島県福島市
	11月1日	相馬市民祭	福島県相馬市
	11月2日	F-1グランプリ	福島県相馬市
	11月2～3日	東京海洋大学海鷹祭	東京都港区
11月16～17日	MIDETTE	東京都中央区	

(ア) 第30回高幡参道七夕祭

平成26年7月5日、福島県水産物の風評払しょくと試験操業のPR、試験操業で漁獲された水産物の販売のため、東京都日野市で行われた第30回高幡参道七夕祭りに参加した(図2)。私は首都圏でのイベント参加はこの時が初めてであったため、福島県の水産物に対するお客さんの反応が非常に気になったが、心配の必要は全くなく、用意した水産物は飛ぶように売れていった。また、この日は後述する「小女子あんかけ焼きそば」のデビュー戦であったが、非常に好評であった。新メニューということもあり、準備や提供方法など今後の課題も見つかったが、次のイベントに向け手応えをつかんだ。



図2 第30回高幡参道七夕祭の様子

(イ) おいしい ふくしま いただきます! フェスティバル 2014

平成26年9月6~7日に「おいしい ふくしま いただきます! フェスティバル 2014」に参加し、試験操業で漁獲されたシラス、コウナゴ、ツブ貝串焼き販売と試験操業のPR活動を行った(図3)。このイベントは福島県の名物料理や、県産農林水産物を活用した特産品など、ふくしまの食の魅力を発信するもので、県内から150件ほどのブースが集まった。参加した漁業者は、沖合底曳網漁業に従事する20代の若手青壮年部員で、その多くがイベント初参加であった。私たち青壮年部役員たちは若手にイベントを任せることは少々不安であったが、いざイベントが始まると、手際よく仕事をこなし、予定した販売数量は早い時間で完売となった。イベント参加はこれまで青壮年部役員を中心に行われてきたが、若手漁業者が積極的に活動してくれることを非常に頼もしく思った。



図3 おいしい ふくしま いただきます! フェスティバル 2014



図4 函館・みなみ北海道グルメパーク in さいたま・大宮の様子

(ウ) 函館・みなみ北海道グルメパーク in さいたま・大宮

平成26年10月18~19日に埼玉県さいたま市で開催された「函館・みなみ北海道グルメパーク in さいたま・大宮」に参加し、福島県漁業の現状や試験操業PR、試験操業で漁獲されたシラス、コウナゴ、ツブ貝串焼きの販売を行った(図4)。函館・みなみ北海道地域や東北地域の食や観光、伝統芸能を紹介するイベントで、今年の仙台に続き2回目の参

加となった。当日は天候に恵まれ、用意した試験操業で漁獲されたシラスやコウナゴ、ツブ貝串焼きは昼を過ぎるころには完売し、平成 26 年度の最高の売上を記録した。来場者の中には、福島県で漁業が再開されていたことを知らない方もおり、販売している水産物が福島県沖で漁獲されていることを伝えると驚かれていたが、温かい応援の声をたくさん頂いた。

(2) 新メニューの考案

これまでのイベントでは試験操業や放射性物質の検査体制の紹介に加え、シラス、コウナゴ、ツブ貝串焼き等試験操業で漁獲された水産物の試食・販売を行っている。平成 26 年から、手軽においしく試験操業で漁獲された水産物を味わってもらおうと、試行錯誤しながら新メニューの検討をはじめた(図 5)。焼きそばや揚げ物炒め物などで検討を進めた。中でもコウナゴを用いた「小女子あんかけ焼きそば」はコウナゴの生臭さが出るのではと心配されたが、においはなく、釜揚げのような食感となり満場一致で商品化が決定された(図 6)。現在いくつかのイベントで販売を行っており、高い評価を受けている。今後、調理法の紹介やご当地グルメコンテスト等の参加などを行い、試験操業の PR 活動や魚食普及活動にも力を入れていきたい。



図 5 新メニュー打ち合わせの様子

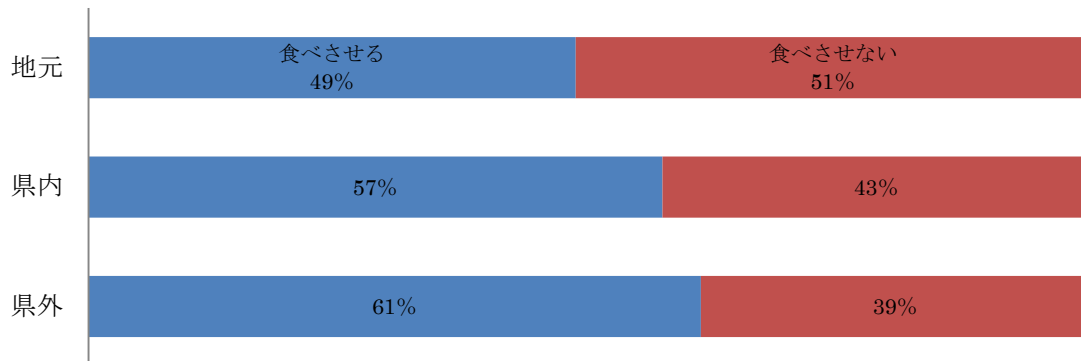


図 6 小女子あんかけ焼きそば試作品

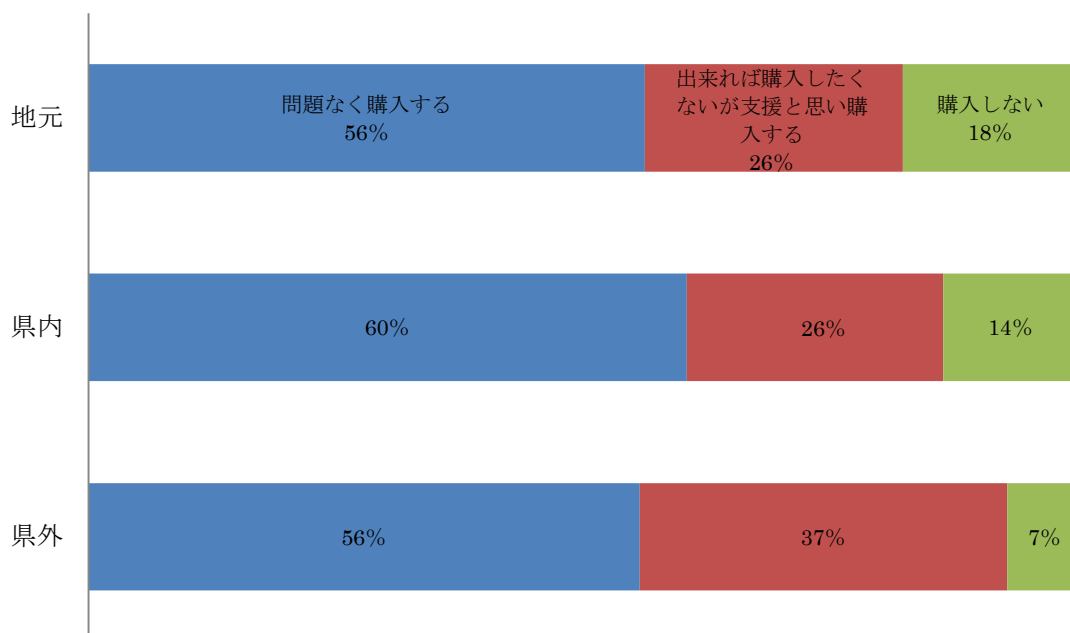
(3) アンケート調査

イベント参加時には、消費者の意見を客観的に捉えるため、アンケート調査を実施している。これまでに得られた結果を見てみると、いくつか特徴が明らかとなってきた(図7)。私たちは、イベント参加当初、福島県産の魚は、福島県外で販売することは非常に難しいのではないかと考えていた。しかし、アンケート結果からは、福島県の魚を購入し、応援したいという声や、そもそも産地を気にしていないので福島県産であっても問題なく購入するという声が多く寄せられている。また、福島県外よりも福島県内の方が、放射性物質の影響を心配する声は多い。福島県産の水産物は極力購入しないという意見や、若い世代には福島県産の水産物を食べさせないという方の割合は県外よりも県内の方が高かった。今後も結果を的確に把握し、消費者の福島県水産物に対する不安を拭い去れるようPR活動に反映させていきたいと考えている。

20歳未満の方々に福島県の魚が基準値(100ベクレル以下)と表示され販売された場合、食べさせますか？



仮に福島県の魚が基準値内(100ベクレル)と表示され販売された場合、購入しますか？



現在の状況で、仮に福島県産と他県産の魚が同価格・同品質に並んでいる場合、どちらを購入しますか？

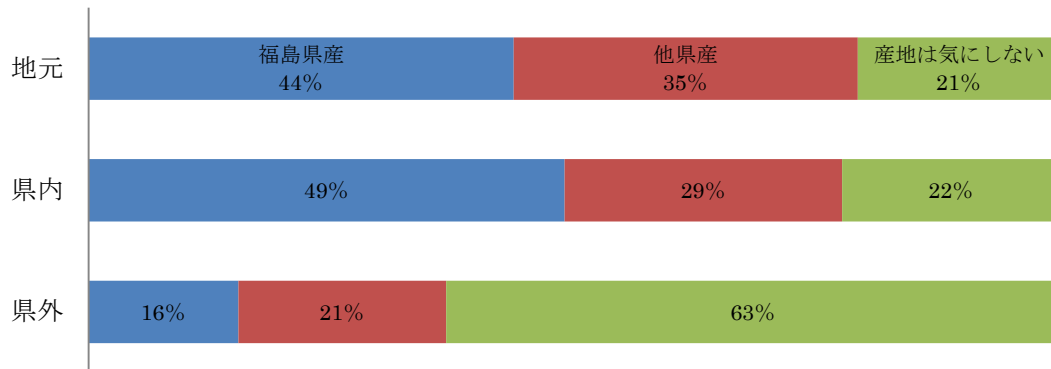


図 7 イベント会場で実施したアンケート結果の一部

6. 波及効果

イベント会場での、消費者と対話することやアンケートを分析することで、福島県の水産物や水産業がどのように捉えられているのか、普段の生活では感じることでできない消費者の反応を感じる事ができた。私たちは本来、消費者のニーズを分析して水産物の提供を行わなければならない。しかし、震災以前は日々の漁労作業に追われ、自分の獲った魚を消費者が食べる姿をイメージすることはなかった。イベントでの消費者との対話を通じて自分の獲ってきた魚が食卓に上るまでのプロセスを鮮明にすることができ、生産者として学んだことは非常に多かった。また、青壮年部員全員が意見を出しあいながらイベントを進めてきたことや他支所の青壮年部と協力しイベントに参加したことなど、それまで交流の機会が少なかった世代の離れた部員や他支所の漁業者とも交流が図られるようになった。この他にもイベント参加がきっかけとなり、講演の依頼があったり、現地を視察するきっかけになったりと想定していなかった波及効果がいくつも得られている。

7. 今後の課題や計画と問題点

イベント等で福島県水産物を紹介すると、どこで買うことができるのか、取り寄せはできないのかといった問い合わせを多く受ける。試験操業は月に数回の操業であり、さらに1回の水揚量も少なく、流通される量は限られている。相馬市内であれば鮮魚店やスーパー等で試験操業の水産物を購入することが、市外の消費者に福島県水産物を届けるのは難しい。せっかくPR活動을続けて、福島県の水産物に興味を持ってもらっても、提供することができないのでは、効果は半減してしまう。今後は福島県の水産物を求めるお客さんに対して、いつでもおいしい魚が入手できるような流通体制も検討していく必要がある。また、試験操業を徐々に拡大し、水揚げ回数や量を増やし、本格操業に向けた準備を徐々に進めて行く必要がある。